

ブラジル剣道連盟
第30回
全伯剣道大会を開催

510人の剣士が一同に

安部下議が蛭原会長に感謝状



安部下議からプレートを受け取る蛭原会長(中央左)

ブラジル剣道連盟(蛭原忠男会長)が7、8の両日、サンベルナルド・ド・カンポ市立体育館で『第30回全伯剣道大会』を開催した。同市、宮坂国人財団の後援。マセイオー、ポルト・アレグレ、レシフェなど全伯35支部から510人の剣士が参集し、男女レベル別および50歳以上の計6カテゴリーに分かれ、個人・団体戦で日頃の稽古の成果を競った。どの部門も日系人が優勝を勝ち取ったが、徐々に力をつけてきている非日系人選手らも決勝進出し、上位に入賞する健闘を見せた。



男子三段以上入賞者(写真提供=立花全)

同連盟は1982年に設立され、現在48支部、約900人の選手が所属する。剣道人口の

減少を食い止め更に普及を図るため、7、8年前から連盟役員らが地方に赴き支部を増やしている。蛭原会長は「小さい内に剣道を始めた方が、正しい剣道を伝えやすい」と、幼少年を対象に強化訓練や日伯

間の剣士交流、貧民街に剣道教室予定しているほどの呼びかけを行な大会当日、「ヤ「メーン」と寒さのけるような気合た掛け声が体育館



剣道

かいたい

同連盟は1982年に設立され、現在48支部、約900人の選手が所属する。剣道人口の

減少を食い止め更に普及を図るため、7、8年前から連盟役員らが地方に赴き支部を増やしている。蛇原会長は「小さい内に剣道を始めた方が、正しい剣道を伝えやすい」と、幼少年を対象に強化訓練や日伯



男子三段以上入賞者(写真提供=立花全)



女子二段以上入賞者(写真提供=立花全)

間の剣士交流、聖市の貧民街に剣道教室開設を予定しているほか、伯社会の学校にクラブ開設の呼びかけを行なっている。大会当日、「ヤーツ」「メイン」と寒さを押しつけるような気合の入った掛け声が体育館に響き

渡る中、選手らは試合に臨む仲間の一挙一動を見守り、技が決まると拍手や声援を送った。男女の最強カテゴリーで優勝を勝ち取ったのは尾中兄妹。二人とも幼少の頃から剣道に親しみ、優勝経験も多数ある。二人は延長戦の末、それ

ぞれ胴、面を決めて1位を勝ち取った。

栄作さん(33、二世)は「相手が面に来るのを知っていたので、返し技をしようと決めていた」と話し、美和さん(32、二世)は「今年

は女子の選手が多くてレベルも高かった。よく集中して自分の力を出し切るように頑張った」と結果に満足した様子で語った。

午前の個人選終了後、剣道や音楽活動を通して

日系・伯社会に貢献したとして、安部順二連邦下議から蛇原会長に銀のプレートが贈られた。

続いて、蛇原会長からABC地区で唯一の剣道道場を持つ善村和夫さん、浦野敏・国土舘支部長の代理で訪れた息子の浩一さんに表彰状が渡された。今回の会場を無料で借りることができたのは、善村さんによる同市市長への働きかけ

によるもの。午後4時5分が出場する団体選で盛り上がり、夕方5時過ぎに表彰式が行なわれた。入賞者らはそれぞれ口フイーやメダルを受け取り、会場から大きな拍手が贈られた。

また、表彰後は同大会出場者にも拍手が贈られ、最後に渡辺進さんの音頭で万歳三唱、伯国旗に礼をして大会の幕を閉じた。

大会結果(敬称略、順位順)

◎個人戦【女子段外・初段】西村マリアナ・タミ、伊東ルシアナ・リカ、フラビア・ズミアニ・サンシエス【女子二段以上】尾中エウザミ美和、宮沢リリアン・ナツミ、大政ヴィアン・マリ【男子段外】佐藤フンベルト、エルトン・アウグスト・ピオトロスキー、エンリッケ・デ・アルブケルキ・カストロ【男子初・二段】津田ヴィクトル・ヒューゴ・ヒデアキ、足立原チアゴ・アキラ、上田エクトル・トシ

オ【男子三段以上】尾中栄作エルネスト、パウロ・デ・タルソ・レイチ・ジュニオル、高山アルベルト・マスミ【50歳以上】戸井田ネルソン・クニジ、大塚ウィルソン・トシヒロ、石橋ヒロヨシ

◎団体戦【初・二段】ロンドンリーナ剣道振興会、スザノ文化協会、汎スザノ文化体育農事協会【三段以上】ブラジル日本文化福祉協会、三重県人会、バンドイランテス剣道協会